

## 実戦トライアル ナビゲーションシート

指導者の方々へ

この「ナビゲーションシート」は、生徒が試験を受ける際に、適切な時間配分で解き進めることにより、可能な限りの高得点が得られるような練習をするための設計図です。

それぞれの生徒が、もっている学力を十二分に発揮し、最大の得点を得るためには、出題された個々の問題に関して、どの程度の時間をかけながら解き進めていくのかという意識付けがされていなければなりません。また、「得意なものから解いていく」、目標得点によっては、「すぐにわからない場合は、その問題を飛ばす（その問題をあとに回す）」など、解いていく順序などについても意識させなければなりません。

このような力を伸ばしていくための使い方の一例をあげると、次のようになります。

まず、A 第1回からA 第6回までの、実入試の半分の分量のテストで、時間配分を体得していきます。

- ① 目標得点の設定……50点から100点まで、10点刻み程度の目標得点を設定します。
- ② 正解すべき問題の設定……小問別の配点と想定正答率を参考にして、目標得点を得るために正解しなければならない問題を決めます。目標得点より数点高く設定します。
- ③ 時間配分の決定……大問ごとに、解く時間を設定します。最後の見直しの時間も考えて、設定します。標準設定時間は、100点をとるための標準的な時間配分です。
- ④ テストの実施……時間を決めて、テストを実施します。時間経過を意識して行うようにします。
- ⑤ 結果の分析……正答誤答の結果を記入させ、②での設定と比較させ、問題点はどこにあったか分析します。

上記のことは、生徒自らができるようになるまでは、指導者の方が補助してあげてください。

実戦トライアルのA 第1回からA 第6回までに、これらの作業をなるべく短時間でできるようにしていけば、25分間の試験時間の使い方が自然に身に付いてきます。

B 第1回からは、実施時間が50分の実入試とほぼ同じ分量の演習になります。分量が倍になるので、集中力も必要となってきます。50分が有効に使えるような時間配分が、第3回目くらいには自らできるようにしたいものです。第4回目以降は、シートを使わず、本番のつもりで、問題用紙を見てすぐに設計して実施し、実戦力を身につけるようにしてください。